



侵略・大空襲・沖縄戦・原爆投下そして敗戦 2018年原水爆禁止世界大会は明日から開催

今年も第2次世界大戦終結日（日本敗戦日）が近づいてきました。1889年に制定された大日本帝国憲法によって天皇が絶対的な権力をもち労働者・国民を支配して資本家と地主の利益を擁護し国民を無権利状態におく専制支配がおこなわれました。

この絶対主義的天皇制と当時の日本政府・軍部が結びついて無謀きわまる侵略戦争に突き進みアジア諸国民2000万人、日本国民310万人ともいわれる夥しい数の無辜



昨年国民平和大行進の東京～神奈川に引継ぎ

の民が犠牲となりました。日本の敗戦が決定的となると支配勢力は、天皇を中心とする国家体制を維持するために国民への犠牲をいっそうつよめて、アメリカ軍（連合軍）による日本全土への大空襲、沖縄での地上戦、そして広島・長崎への原爆投下を誘引してきました。その原爆が人類史上初めて広島に投下されてから明日8月4日で73年となります。2018年原水爆禁止世界大会in広島は明日4日～6日に開催され、7日～9日に長崎で開催される世界大会には国連のグテレス事務総長も参加をします。

また、5月以降に全国でとりくまれてきた「国民平和大行進」や7月30日に川崎市役所前で宣伝行動をおこなった建交労全国青年部の反核トラックキャラバン隊も8月4日に合わせて広島の平和記念公園に到着します。



2017年の原水爆禁止世界大会in長崎の様子

今年の原水爆禁止世界大会は昨年7月7日に国連で核兵器禁止条約が制定されてから2度目の大会で、昨年9月20日から始まった各国の禁止条約への署名が今年7月25日時点で59カ国、批准国は13カ国にまで到達し条約発効に必要な50か国の批准を後押しする大会となります。今年の建交労神奈川県本部は、神奈川県南支部三昭運輸分会の清野純平分会長が広島世界大会に参加を県本部の機関紙で報告する予定です。